

よいことの
ために
手を取りあおう



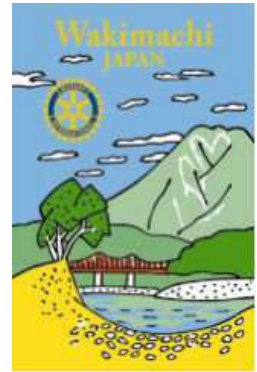
脇町ロータリークラブ

第2670地区

徳島第2分区 脇町ロータリークラブ

2025年 11月 6日（木）

第18回例会 No.2953



会員総数:39名 出席人数:29名 修正出席者:39名 修正出席率:100%

◎本日のゲスト

米山カウンセラー 田中 茂 様（鳴門RC）
奨学生 ドルジ オドバヤル 様

◎メイクアップ

◎会長挨拶

脇町RC

須藤会長

本日は先ほど紹介させていただきました鳴門ロータリークラブより、奨学生のドルジ オドヤルさんに卓話をお願いしておりますが、9月13日徳島グランヴィリオホテルにおいて米山協議会に参加したときにドルジさんのすばらしい卓話を聞いて、私たちクラブの皆さんにもぜひ聞いてもらいたいと思いますすぐお願いをいたしました。今回来ていただきましてありがとうございます。皆さんも楽しみにしてくださいね。それと11月3日の夜ある場所で南先輩と豊島先輩に偶然お会いすることがありました。お二人とも年齢と体のご心配があり退会を致しましたが、大変元気そうでした。久しくお会いできてなかったので、嬉しくて長い時間お話しさせていただきました。お二人に両方の手を握られ会長頑張ってるようで、よかったと熱のこもった激励と感謝の言葉をいただきました。お二人とも熱のこもった言葉の中に少し寂しそうな感じで、ロータリー会員を続けていたかったのかも、そんな気がしました。でも元気そうで何よりでした。お二人から皆さんによろしく伝えてくださいとおっしゃっておりました。

以上会長挨拶でした。

本日も有意義な例会となりますようよろしくお願いいたします。

◎ 幹事報告

細川幹事

到着週報 鴨島RC 洲本RC 阿波池田RC 美馬RC

到着書類 ・ [回覧]ガバナー月信11月号
・ 次年度RC財団補助金管理セミナーのご案内 12/6（土）新居浜

報告事項 ・ 11/13(木) IM委員会開催 メンバーは11時ミライズ集合です
・ [回覧]親睦委員会より 11/20 夜間例会BBQの出欠

連絡事項 ・ 本日例会終了後、理事会を開催します

◎ 委員会報告

親睦委員会

友成会員

11月会員誕生日

河野会員 佐藤俊彦会員 上柿会員

11月会員ご家族誕生日

佐藤順二会員 小野会員 佐藤直樹会員

11月会員結婚記念日

兼西会員 佐藤順二会員 古川会員 河野会員 小笠会員

川原会員 藤原武志会員 遠藤会員 佐藤俊彦会員

◎ プログラム

卓話

鳴門RC

米山カウンセラー

田中 茂 様

皆さん、こんにちは。鳴門RC米山奨学生カウンセラーの田中でございます。本日は貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。鳴門RCさんは来年2月22日にIMを開催されるということで、オドバヤルさんを連れて参りますので、よろしくお願いいたします。また本日は、脇町RCの幹事・細川様からご依頼いただきまして、同じく奨学生のドルジ オドバヤルさんを連れてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。少しだけオドバヤルさんのご紹介をさせていただきます。出身はモンゴル・ウランバートルでございます。現在は鳴門教育大学の博士課程で学校教育を学ばれております。研究テーマは、英語教科書の文化関連の分析、およびモンゴルの教科書内容と小学生の英語学習の適合性の分析をされているということでございます。母国語の他に、英語、ロシア語、中国語、そして日本語が堪能でございます。彼女をお呼びする際は「オドバヤルさん」で結構でございます。地元の撫養小学校と高知県の土佐山学舎で英語を教えておられるということでございます。そして今日、脇町RCさんの卓話のため、モンゴルの民族衣装「デール」を着用していただくようリクエストさせていただきました。このデールはモンゴル族の民族衣装であります。チャイナドレスのルーツだそうです。オドバヤルさんは私の所感でございますが、大変明るい性格でございます。ご本人が気づかれたこととし

て、日本語の教科書や絵本は素晴らしいということでございます。ぜひ母国でも取り入れてほしいと思っておられます。それでは、挨拶はこれまでとさせていただきます。どうもありがとうございました。

奨学生

ドルジ オドバヤル
様

皆様、こんにちは。私はオドバヤルと申します。モンゴル語で「オド」は星、「バヤル」は祭りやお祝いという意味があります。モンゴル出身で、現在は鳴門教育大学でグローバル教育を専攻し、異文化理解と英語教育に取り組んでいます。モンゴルで英語教員として6年働き、2年前に教師研修生として来日しました。日本の先生方が文化を授業に取り入れる方法に興味を持ち、再び日本に戻って研究を始めました。研究テーマは、モンゴルにおけるピアソンの英語教科書の文化的・内容構成の分析です。学生が自分のアイデンティティを大切にしながら英語を学べる教材開発を目指しています。私は『まるごと』という教科書で日本語を勉強していますが、日本や他国の文化がバランスよく含まれています。しかしピアソンの英語教科書にはモンゴルの文化や国際文化が含まれておらず、学生に合った教科書を作る必要があると感じています。日本は教育レベルが高く、文化を学びに取り入れる方法がユニークです。鳴門教育大学では留学生が毎月、土佐山学舎を訪問し、日本の学生が英語で故郷を紹介してくれます。また、書道、藍染め、茶道などの文化プログラムを通して、日本の文化や歴史を学んでいます。日本では小さい頃から地元の歴史や文化、自然の大切さを学びます。この教育スタイルに感動し、大学院で学ぶことを決めました。ロータリー米山奨学金は、経済的支援だけでなく、心の励ましと日本での居場所を与えてくださいました。以前は経済的不安で研究に集中できない時もありましたが、今は安心して勉強や執筆に取り組んでいます。鳴門ロータリークラブの皆様との出会いは最も心に残っています。最初の例会から温かく迎え入れていただき、創立70周年記念行事では家族の一員のように接してくださいました。この夏、私の娘が鳴門に来た時、藤岡さんをはじめクラブの皆様がバーベキューを企画してくださいました。娘は日本で初めて友達を作り、今はモンゴルで日本語を勉強しています。母親として感謝の気持ちでいっぱいです。ロータリーは単なる奨学金制度ではなく、人を思いやり、国や世代を超えて友情の橋を築く人々の集まりだと感じました。私は国際文学史や異文化交流誌にエッセイを寄稿し、モンゴル人留学生としての経験を発信しています。将来の夢は、モンゴルの文化や遊牧民の伝統を伝える絵本を作り、モンゴルと日本の架け橋になることです。大きな影響を受けたのは、ウランバートルに新モンゴル学園を創設したガルバトラフさんです。彼も米山奨学生で、帰国後に日本式私立学校を設立し、モンゴル米山学友会を立ち上げました。私の夢は、モンゴルの子供たちのために勉強だけでなく、文化的アイデンティティや国際交流も学べる学習塾を設立することです。ロータリー米山記念財団と鳴門RCの皆様は心から感謝申し上げます。将来モンゴルに戻った後は米山学友会に加わり、次世代に恩返しをしたいと思っています。私にとってロータリーとは、国境を超えて友情と希望の橋を築く、温かい手の集まりです。本当にありがとうございました。

◎ニコニコボックス

米山カウンセラー 田中様（鳴門RC） オドバヤル様
遠藤ガバナー補佐（脇町RC） 藤原武志会員 小野会員 佐藤直樹会員
小笠会員 佐藤順二会員 河野会員

◎次回例会

2025年 11月 13日（木） 12：30 ～ 清月屋敷

◎次回プログラム

☆次の会員は例会欠席でした。

笠井会員・加島会員・兼西会員・上柿会員・河合会員・木下会員・武田会員
秦会員・三谷会員・山本会員・吉野会員

☆次回例会の出欠を 佐藤直樹出席委員長まで連絡してください。